

新東名高速道路建設に伴う発掘成果

にしとみおか むこうぼた 西富岡・向畑遺跡

主催 (公財)かながわ考古学財団

共催 伊勢原市教育委員会

縄文時代の埋没谷の発掘 と出土遺物

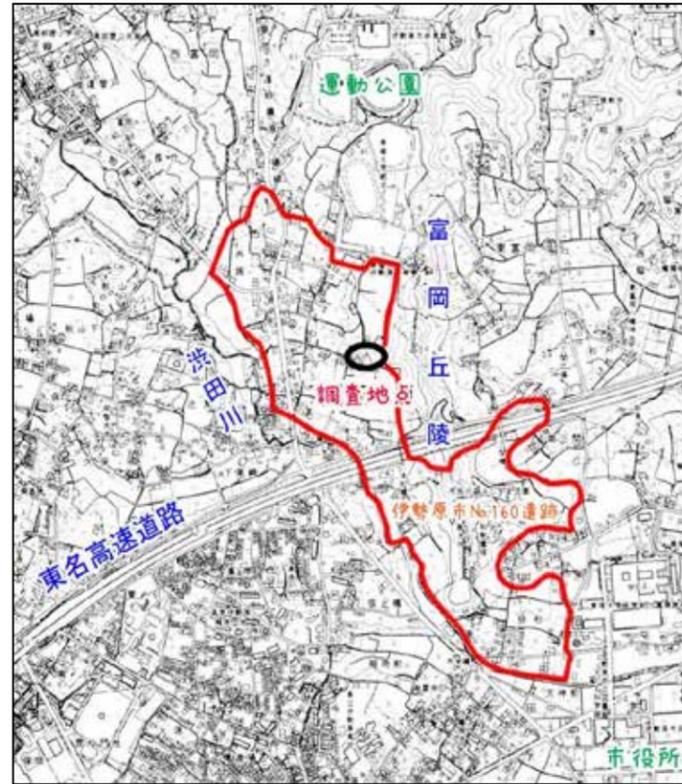
にしとみおか むこうぼた
西富岡・向畑遺跡の発掘調査

伊勢原市西富岡に所在する西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社が計画する新東名高速道路建設に伴う事前調査として、2007年4月から発掘調査を実施しています。

西富岡・向畑遺跡では、これまでの調査によって、中世の建物跡、古墳時代末から平安時代にかけての集落跡、縄文時代中期から後期にかけての台地上の集落跡、谷部からはクルミやトチの実などの堅果類が多数出土した水場遺構などが発見されており、たくさんの遺物が出土しています。今回は、縄文時代の埋没谷から見つかった遺構・遺物を中心に、発掘調査の成果の一部を紹介します。



7区 縄文時代の埋没谷調査状況



遺跡の位置

これまでの主な発見遺構と出土遺物

—発見遺構—

- 中・近世: 竪穴建物、掘立柱建物、地下式坑、地下室、道、溝、井戸、土坑 など
- 古代(奈良・平安時代): 竪穴建物、竪穴状遺構、掘立柱建物、円形土坑、土坑 など
- 縄文時代: 敷石住居、集石、配石墓、埋甕、带状粘土列、水場遺構 など
- 旧石器時代: 礫群、石器制作址

—出土遺物—

- 中・近世: 陶磁器・かわらけ・硯・宋銭・炭化柿 など
- 古代(奈良・平安時代): 土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、銅製品(銚子金具・巡方・丸鞆)、金銅製品(飾り金具)、鉄製品(刀子)、石製品(砥石)、温石、土製品(土錘) など
- 縄文時代: 縄文土器、打製石斧、磨製石斧、管玉、石棒、石皿、石鏃、堅果類など
- 旧石器時代: 槍先形尖頭器(安山岩)、剥片(黒曜石) など



7区 埋没谷全景(南から)

上の写真は現在調査中の埋没谷です。川床面では礫や土器・石器が多数出土しています。谷の縁辺部では、縄文時代後期前半の住居が9軒見つっています。J1号住居は壁高が1m以上あり、中央部には石囲炉が検出されています。対岸のJ7号住居は床面に平らな石を敷いた敷石住居で、南側から埋甕が見つっています。



J2号住居 床面出土縄代

上の写真は、J2号住居から出土した縄代です。炭化した状態で、近くで見ると、編み目が残った状態で出土していることがわかります。敷物か、あるいは籠類の一部であったと考えられます。



赤丸は、今回の調査で発見された遺構・遺物のおおよその時期を示しています。



7区 J1号住居(東から)



7区 J7号住居(北から)



7区 J7号住居 埋甕



新東名高速道路建設に伴う発掘成果
西富岡・向畑遺跡(伊勢原市No.160)
2017年7月1日
公益財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1
TEL 045-252-8689 <http://kaf.or.jp/>
「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」

西富岡・向畑遺跡 縄文時代の水場と集落



縄文時代中期後半(加曾利E式期)の竪穴住居跡



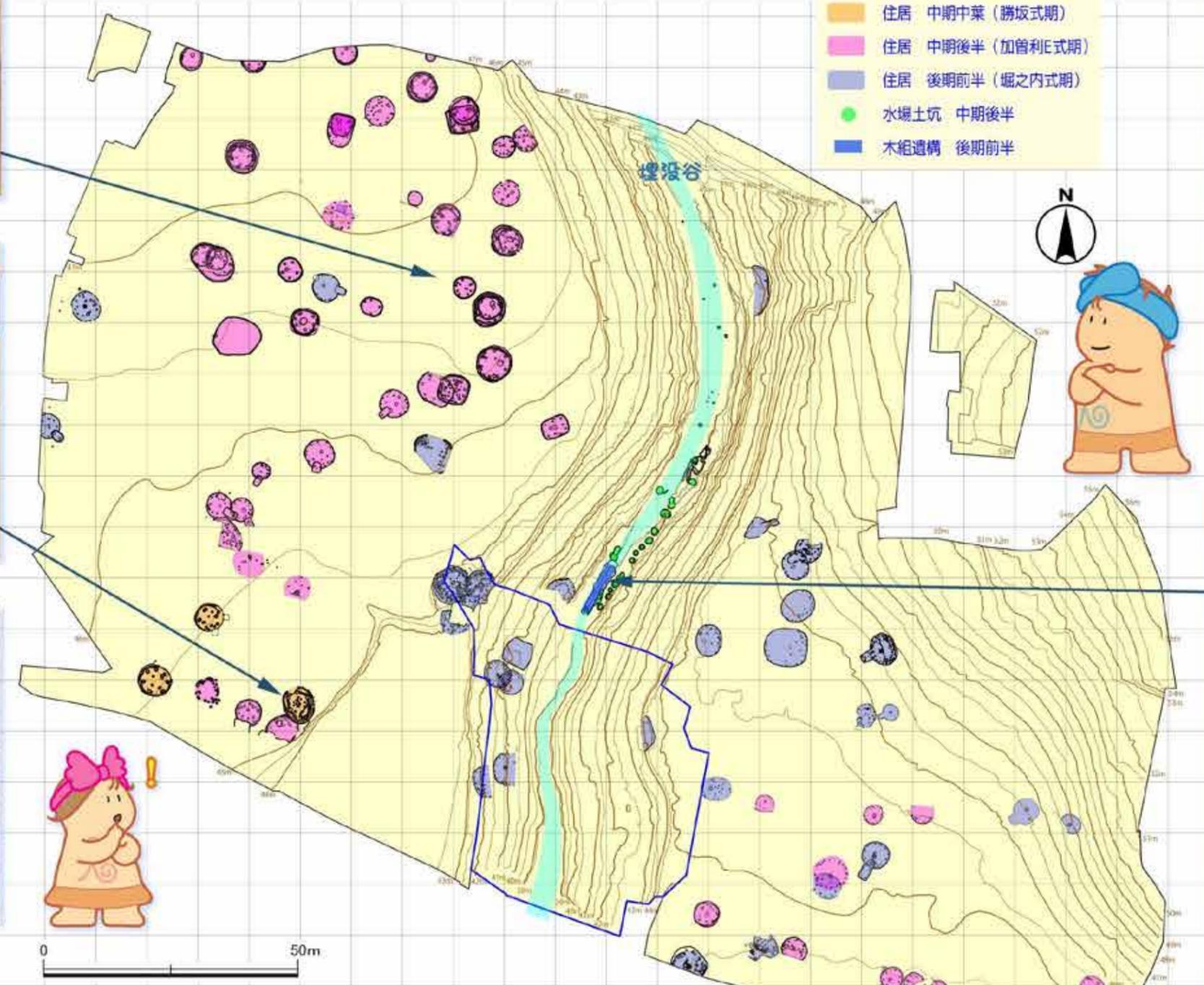
縄文時代中期中葉(勝坂式期)の竪穴住居跡



水場の土坑から出土した漆塗土器(加曾利E式)



谷底から出土した石皿と編み物



水場の土坑から出土した木製容器



木組遺構から出土した石斧の柄



土製(右2点)と赤漆が塗られた木製(左)の耳栓(耳飾り)



埋没谷北側の景観(南から)



水場の木組遺構(堀之内式期)



後期前半(堀之内式期)の敷石住居跡